

坂元純熙、國分友諒（国分友諒）両氏の墓所について（六訂稿）

—中原英典氏のお問い合わせを追って—

（令和 4（2020）年 8 月 6 日（土）現在）

〔目 次〕

（補正経緯）	1
（前記）	1
（本文）	2
（追記 1: 文献追加）	3
（追記 1: 文献追加）	3
（追記 3: 加藤晶氏追悼）	4
（追記 3: 原田弘氏追悼）	4
（追記 5: 日高節「安立綱之翁叢談（其 1～6）」の件）	5

（補正経緯）

平成 17（2005）年 9 月 1 日（木）初稿作成

HP 初出: 平成 19（2007）年 8 月 7 日（火）改訂稿作成

平成 24（2012）年 8 月 28 日（火）再訂稿作成

（（追記 1）、（参考）を追加）

平成 26（2014）年 7 月 23 日（水）三訂稿作成

平成 29（2017）年 3 月 20 日（月）四訂稿作成

（（追記 2）を追加）

令和 2（2020）年 7 月 6 日（月）五訂稿作成

（レイアウトを変更するとともに、（追記 3）を追加。）

令和 4（2020）年 8 月 6 日（土）六訂稿作成

（一部補正、追加）

\*\*\*\*\*

（前記）

・本稿は、坂元純熙、國分友諒（国分友諒）両氏の墓所について調べしことの要旨を、最初『警察時報』第 60 卷第 9 号（平成 17（2005）年 9 月 1 日刊）に掲載し、その後、二、三補注を付して、『高橋雄豺博士・田村豊氏・中原英典氏等略年譜・著作目録並びに『警察協会雑誌』資料一斑等—明治警察史雑纂 第二輯—』（平成 19（2007）年 3 月 1 日刊、CD 版有。）に再録したものを、更に改訂しつつあるものである。なお、後者には、「國分友諒顕彰碑について—原田弘先生のお教えに接して—」をも収録したが、ここでは省略した<sup>1</sup>。

<sup>1</sup> その後、平成 19（2007）年 9 月 24 日に、本 HP 別稿として同稿改訂稿を掲出した。「國分友諒顕彰碑について（改訂稿）—原田弘先生のお教えに接して—」（平成 24 年 8 月 28 日追加）

・その後、令和 2（2020）年 5 月時点のものを「坂元純瀨、國分友諒両氏の墓所について—中原英典氏のお問い合わせを追って—」の表題で、下記に収録した。

警察政策学会警察史研究部会編『近代警察史の諸問題—川路大警視研究を中心に—』（警察政策学会資料第 110 号。警察政策学会、令和 2（2020）年 5 月 8 日刊）175～177 頁

〈<http://www.ass.jp/>〉⇒

〈<http://ass.jp/report/%E8%AD%A6%E5%AF%9F%E6%94%BF%E7%AD%96%E5%AD%A6%E4%BC%9A%E8%B3%87%E6%96%99110.pdf>〉

（本文）

明治の警察体制を確立したのは、それこそ川路利良（1834～1879）であるが、当初川路に拮抗する有力者として坂元純瀨（1843～1914、司法省警保助兼大警視）がいた。坂元は、國分友諒（1837～1877、ともさね、大警視兼権中検事、西南戦争官軍戦死者中の最高位者）とともに、明治 6（1873）年政変（同年 10 月 24 日西郷隆盛（1827～1877）の参議・近衛都督解任）後の征韓断行と同参議復職運動を巡る所謂ポリス沸騰<sup>2</sup>の当事者、翌 7 年の台湾出兵時の徴集兵指揮長（國分は指揮副長）として知られる<sup>3</sup>。また、内務省警保局長、第 15 代警視總監、貴族院議員を歴任した安立綱之（1859～1939）は、國分の実弟である<sup>4</sup>。

坂元、國分両氏については、戦後明治警察史研究に大きな業績を残された中原英典氏<sup>5</sup>（1915～1979）の「阪元純瀨履歴一斑—明治警察史資料（2）」『警察研究』第 42 巻第 5 号（昭和 46 年 5 月、69 頁以下）及び御遺稿「七人の大警視—阪元、國分両氏の墓所につきお尋ねをかねて—」『警察学論集』第 36 巻第 2 号（昭和 58 年 2 月刊、128 頁以下）に詳しいが、同氏は、後者で、坂元、國分両氏の墓所について、他の 5 人の大警視（川路利良、田辺良頭、安藤則命、大山巖、樺山資紀）と違い、その所在地が不明として、その場所を問いかけていた。ただ、國分の墓所については、最初谷中墓地にあって後に杉並区永福町付近に移転したと聞くと述べておられた。

その後久しくこれに言及した文献に接することもなく今に至ったが、先頃、思いがけず、原田弘氏（1927～2021）<sup>6</sup>の御示教により、國分の墓所が杉並区和泉・大円寺（最寄り駅は京王・永福町駅）であることを知った<sup>7</sup>。なお、同墓所には、長茨（ひかる、三洲、1833～1895）による「國分君碑」<sup>8</sup>がある。

---

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kokubukenshoji.pdf>〉

<sup>2</sup> 中村徳五郎（1873?～1940）『川路大警視』（日本警察新聞社、昭和 7 年 10 月 1 日刊）、日高節（みさを）『明治秘史 西郷隆盛暗殺事件』（隼陽社、昭和 13 年 7 月 1 日刊）25、40～44 頁が詳しい。なお、ここにいう「ポリス」とは「警保寮」を指す由である。（中村徳五郎につき下記参照。

〈<http://www6.plala.or.jp/guti/cemetery/PERSON/N/nakamura tk.html>〉（平成 26 年 7 月 23 日一部補正）

<sup>3</sup> 例えば、『西南記伝』（上巻一）（黒龍会本部、明治 41 年 12 月 3 日刊）（第三篇 征蕃の役（517 頁～）第三章 征蕃論と内治派（577 頁～）二 征蕃論と坂元純瀨（580～585 頁））、矢野宏治「大西郷と台湾征討」『敬天愛人』第 18 号（（財）西郷南洲顕彰会、平成 12 年 9 月 24 日刊）71～76 頁（12、坂元純瀨と徴集隊 1、13、坂元純瀨と徴集隊 2）等参照。（平成 26 年 7 月 23 日追加）

<sup>4</sup> 安立綱之「大警視のお蔭」中村徳五郎前掲『川路大警視』347 頁、日高節「安立綱之翁叢談（其 1～6）」『自警』昭和 10 年 1～4、6、7 月号各参照（⇒「追記 5」（令和 4（2020）年 8 月 6 日追加））。

<sup>5</sup> 中原英典氏の著作につき〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nakahara001.pdf>〉参照。（平成 24 年 8 月 28 日追加）

<sup>6</sup> 原田氏は『MP のジープから見た占領下の東京 同乗警察官の観察記』（草思社、平成 6 年 12 月刊）の著者である。その後、『ある警察官の昭和世相史』（草思社、平成 23 年 12 月 16 日刊）をも刊行された。（「その後」以下、平成 24 年 8 月 28 日追加）

<sup>7</sup> 原田弘「杉並の名墓（42）」『杉並郷土史会報』第 120 号（平成 5 年 7 月刊）参照。

<sup>8</sup> 「國分友諒顕彰碑について」『高橋雄豹博士・田村豊氏・中原英典氏等略年譜・著作目録並びに『警察

原田氏のお話によれば、明治法制史研究の泰斗で中原氏や御自身とも親しい関係にあった元慶応義塾大学名誉教授手塚豊博士（1911～1990）より、同墓所が杉並区内にある可能性を聞かれて、「同区内の古い寺、島津家と縁のある寺」という観点から探索し、遂に大円寺<sup>9</sup>であることを突き止められたとのことであり、敬服にたえない。

については、出来ればこの機会に、坂元純熙の墓所に関しても、何か手がかりでも得られればと思い、一、二調べた<sup>10</sup>ところ、最終的には、坂元の二弟俊一の御令孫である坂元正典氏（1914～1999）の御論稿「明治維新と西南之役における薩摩藩士坂元兄弟の話」『壺山歴史館紀要』第4号（京都、平成3年4月1日刊、3～14頁）に行き着き、同稿で、元は鹿児島市の浄光明寺（南洲墓地）にあったが、戦後大阪に移されたことがわかった。

この過程で、岩山清子（1923～）・同和子（1934～）編『西郷さんを語る 義妹・岩山トクの回想』（至言社、初版平成9年6月30日刊、増補版平成11年5月20日刊）で有名な岩山トク（1856～1952）が、坂元の令妹に当たることを知ったが、岩山の回想は、平成17（2005）年6月22日（水）放映のNHK TV「その時歴史が動いた さらばサムライ（前）西郷隆盛、徴兵制の決断」中でも紹介されたところである。

中原英典氏が今を去る二十余年前に御遺稿で問われた坂元純熙、國分友諒両氏の墓所は、上記のとおりであるが、坂元、國分両氏は、我が警察草創期の有力者であり、そのパーソナルヒストリー探求は、明治警察史研究上極めて意味あるものと考えられるので、小稿がその一つのよすがともなれば幸いである。

（平成17年6月28日稿、同18年6月12日改稿、同19年8月7日再度改稿、同24年8月28日三度改稿、同26年7月23日四度改稿、同29年3月20日五度改稿、令和2年7月6日六度改稿、令和4年8月6日七度改稿）

\*\*\*\*\*

（追記1：文献追加）（平成24年8月28日追加）

國分友諒の墓所につき、その後、下記の著作が出た。

- ・河内貞芳（1977～）『侍たちの警視庁 大警視川路利良の時代』（自己出版、平成24年6月10日刊。前著『侍たちの警視庁』（自己出版、平成19年1月7日刊）の改訂版。）21頁

〈<http://kawachisoutai.chu.jp/keishi1.html>〉

（追記2：文献追加）（平成29年3月20日追加）

大警視川路利良、西南戦争関係で、最近次の著作が刊行又は復刊された。坂元純熙、國分友諒両氏検討上も参考になる。

- ・（復刊）後藤正義（1925～1996）『西南戦争警視隊戦記』（原本：自己出版、昭和62年

---

協会雑誌』資料一斑等—明治警察史雑纂 第二輯—』（平成19年3月1日刊、CD版有。）120頁以下参照。

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatvoshi/kokubukenshohi.pdf>〉

<sup>9</sup> 江戸時代島津家の菩提寺、明治41（1908）年に芝・伊皿子から移転してきた。

<sup>10</sup> 坂元検討には、上記中原英典氏の両稿の他には、鹿児島市・湯葉崎末次郎氏（故人）の平成11年作成HP「墓標を縫って 南洲墓地にて」（御逝去後冊子版の自己出版ありとのこと。平成16年令息による加筆あり。）中の「西郷さんはどんな顔」が、貴重な手がかりとなる。

〈<http://www2.synapse.ne.jp/hanjirou/nan/hajimemi.htm>〉（平成19年8月7日閲覧。同24年8月28日再確認。平成26年7月23日現在では当該HPは既に閉鎖か。なお、下記参照。

〈[http://blog.goo.ne.jp/yuki\\_bins35/e/0936adf4664803bb5bcd8ddfd73186](http://blog.goo.ne.jp/yuki_bins35/e/0936adf4664803bb5bcd8ddfd73186)〉

10月31日刊。平成28(2016)年11月山口県周南市マツノ書店から復刊。

〈<http://www.matuno.com/>〉、パンフレットに中村彰彦氏(1949～)の推薦文掲載。

〈<http://www.nakamuraakihiko.com/?p=1534>〉。)

- ・伊東潤(1960～)『走狗』(中央公論新社、平成28年12月25日刊。同年12月19日発売)(巻末(514、515頁)掲載「主要参考文献」、「その他の参考文献」参照。)

〈<http://jito54.blog13.fc2.com/>〉

〈[https://www.amazon.co.jp/%E8%B5%B0%E7%8B%97-%E4%BC%8A%E6%9D%B1-%E6%BD%A4/dp/4120049248/ref=sr\\_1\\_1?s=books&ie=UTF8&qid=1482563804&sr=1-1](https://www.amazon.co.jp/%E8%B5%B0%E7%8B%97-%E4%BC%8A%E6%9D%B1-%E6%BD%A4/dp/4120049248/ref=sr_1_1?s=books&ie=UTF8&qid=1482563804&sr=1-1)〉

なお、同書については、その後榎木孝明氏(1956～)解説付きの中公文庫本(中央公論新社、令和2(2020)年2月25日刊)が出た。(このみ令和2年7月6日追加)

(書評) 縄田一男(1958～)『週刊新潮』平成29(2017)年3月2日号121頁

- ・(復刊)『中村徳五郎[著] 川路大警視 付・鈴木蘆堂[著] 大警視川路利良君伝』(周南市・マツノ書店、平成29年4月刊)(刊行パンフレットに桐野作人(1954～)「相補い合う川路大警視の古典的伝記 鈴木蘆堂著『大警視川路利良君伝』中村徳五郎『川路大警視』」あり。)

(原典)

- ・鈴木高重(蘆堂)『大警視川路利良君伝』(東陽堂、大正元年12月9日刊。大正5年10月28日4版刊(巻末に当時の各紙書評あり。))

- ・中村徳五郎(1873?～1940)『川路大警視』(日本警察新聞社、昭和7年10月1日刊)(中村徳五郎については、下記参照。)

〈[http://www6.plala.or.jp/guti/cemetery/PERSON/N/nakamura\\_tk.html](http://www6.plala.or.jp/guti/cemetery/PERSON/N/nakamura_tk.html)〉

(追記3: 加藤晶氏追悼)(令和2年7月6日、同4年8月6日追加)

大警視川路利良研鑽会会長加藤晶氏には昨令和元(2019)年5月8日横浜市にて逝去されたが、その後、大警視川路利良研鑽会及び警察政策学会警察史研究部会では、同誌追悼として下記5冊を刊行した。

- ・川路利永・松井幹郎・廣瀬権等編『【CD版】加藤晶会長追悼記念 大警視川路利良関係資料集『「大警視川路利良聖地巡礼」ガイドブック』、『大警視だより』、『大警視だより』続刊及び『大警視川路利良関係文献集成』』(大警視川路利良研鑽会、令和元(2019)年9月1日刊)

- ・警察政策学会警察史研究部会編『令和元年度警察史研究部会特別調査研究報告書 近代警察史関係文献目録抄—川路大警視検討を中心に—』(警察政策学会資料・別刷。警察政策学会、令和元(2019)年10月1日刊)

- ・警察政策学会警察史研究部会編『近代警察史の諸問題—川路大警視研究を中心に—』(警察政策学会資料第110号。警察政策学会、令和2(2020)年5月8日刊)〈<http://www.asss.jp/>〉

⇒

〈<http://asss.jp/report/%E8%AD%A6%E5%AF%9F%E6%94%BF%E7%AD%96%E5%A%D%A6%E4%BC%9A%E8%B3%87%E6%96%99110.pdf>〉

- ・第114、115号『近代警察史の諸問題—川路大警視研究を中心に—(第二輯)武藤誠氏・

加藤晶氏・福永英男氏・戸高公德氏追悼記念論集』(上、下冊、警察史研究部会編、警察政策学会、令和3(2021)年5月8日刊)

〈 <http://asss.jp/report/%E8%AD%A6%E5%AF%9F%E6%94%BF%E7%AD%96%E5%AD%A6%E4%BC%9A%E8%B3%87%E6%96%99114.pdf>〉

〈 <http://asss.jp/report/%E8%AD%A6%E5%AF%9F%E6%94%BF%E7%AD%96%E5%AD%A6%E4%BC%9A%E8%B3%87%E6%96%99115.pdf>〉

\*\*\*\*\*

(追記4: 原田弘氏追悼) (令和4年8月6日追加)

・国分友諒研究の第一人者であられた大警視川路利良研鑽会名誉会員原田弘氏(1927～2021)には、悲しい哉去る令和3(2021)年7月6日に逝去された。94歳(享年95)。謹んで御冥福をお祈りいたします。『大警視だより』続刊第15号(松井幹郎先生追悼号Ⅱ原田弘先生追悼号、通巻第44号、令和4年7月1日刊)11、12頁所載「原田弘先生の御逝去を悼みて」参照。

(追記5: 日高節「安立綱之翁叢談(其1～6)」の件) (令和4年8月6日追加)

日高節「安立綱之翁叢談(其1～6)」の件『自警』昭和10年1～4、6、7月号は国分友諒関係資料としても貴重なものである。全体として極めて興味深いものであり、国分友諒のことをも知り得る最良の資料であると思えるが、現在では何故かなかなか実見が難しいことから、参考までに『自警』掲載各号の表題のみではあるが記載しておくこととする。ちなみに、著者日高節(みさお)は、『勝海舟遺稿』(詳細不明)、『明治秘史 西郷隆盛暗殺事件』(隼陽社、昭和13年7月1日刊)及び『維新経国秘録 海舟と南洲』(大日本皇道奉賛会、昭和19年3月20日刊)の著者であるが、鹿児島県喜入村出身で上記『維新経国秘録』奥付頁記載の「著者略歴」には「維新史料編纂官、故勝田孫彌氏[1867～1941]編輯所主幹」とある。この他、安立綱之「大警視のお蔭」中村徳五郎『川路大警視』(日本警察新聞社、昭和7年10月1日刊)347頁参照。

日高節「安立綱之翁叢談」(『自警』昭和10(1935)年1～4、6、7月号(巻号数未調査)所載)(参考: 全28頁、ただし『自警』昭和10年5月号には掲載なし。)

西南の役で戦没した陸軍少佐兼権少警視國分友諒のことども(上)

—安立綱之翁叢談・其一— (『自警』昭和10年1月号所載)

西南の役で戦没した陸軍少佐兼権少警視國分友諒のことども(下)

—安立綱之翁叢談・其二— (『自警』昭和10年2月号所載)

古代武士の典型 養父安立利綱の思ひ出(上)

—安立綱之翁叢談・其三— (『自警』昭和10年3月号所載)

養父安立利綱の思ひ出(下)と私の書生時代の追憶(上)

—安立綱之翁叢談・其四— (『自警』昭和10年4月号所載)

明治七年の征台軍に参加した頃の私の書生時代の追憶(下)

—安立綱之翁叢談・其五— (『自警』昭和10年6月号所載)

私の書生時代・好機 明治三十八年帝都騒擾事件を顧みて

—安立綱之翁叢談・其六— (『自警』昭和10年7月号所載)

\*\*\*\*\*

【附録】「明治警察史コーナー」HP 項目一覧（抄）（令和 4（2022）年 8 月 3 日追加）  
[既存「(参考) 本 HP 関係別稿一覧（平成 24 年 8 月 28 日追加、令和 2 年 7 月 6 日一部修正）」を差し替えた。]

- ・「法制史学者著作目録選」中「明治警察史コーナー」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>〉
- ・「松井茂久『警官陶冶篇』研究史抄一本 HP 収載「PDF 版松井茂久『警官陶冶篇』検討資料」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/matsui002.pdf>〉
- ・「PDF 版松井茂久『警官陶冶篇』（増訂三版、明治 25（1892）年 2 月 18 日刊）」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/matsui001.pdf>〉
- ・「大森鍾一『直興遺篋抄』—「長男仕官に就き与へたる訓戒の書」—」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/omori001.pdf>〉
- ・「川路大警視青山墓前の頌徳碑検討一斑（碑文全文、付句読点文、書下し文）—故陸軍少将兼大警視正五位勲二等川路君墓表編修副長官従五位重野安繹撰— 一明治警察史の一齣—」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kawaji002.pdf>〉
- ・「佐和正関係文献抄—明治警察史の一齣—」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sawatadashi.pdf>〉
- ・「坂元純淵、國分友諒両氏の墓所について—中原英典氏のお問いかけを追って—」（本稿）  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sakamoto001.pdf>〉
- ・「国分友諒顕彰碑について（改訂稿）—原田弘先生のお教えに接して—」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kokubukenshoji.pdf>〉
- ・「篠崎五郎関係資料抄—台湾出兵時の徴集隊指揮副長の一人— 一明治警察史の一齣—」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/shinozaki.pdf>〉
- ・「高橋雄豺博士著作目録（再訂稿）」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/takahashi001.pdf>〉
- ・「田村豊氏著作目録」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tamura001.pdf>〉
- ・「中原英典氏明治警察史研究関係著作目録抄（参考）渡辺忠威氏警察史関係文献抄」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nakahara001.pdf>〉

（了）